

※ 一部非公開

令和6年度入学試験問題
(学校推薦型選抜Ⅰ・社会人特別選抜)

小 論 文

国際地域創造学部 国際地域創造学科
(昼間主コース・夜間主コース)

注 意 事 項

1. 受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
2. 解答は、必ず解答用紙に記入すること。
3. 解答用紙の他に、下書き用紙を配付するので、取り違えないよう注意すること。
4. 解答時間は、120分である。
5. 横書き、鉛筆（シャープペンシルを含む）書きにすること。

問 題

次の文章を読んで、以下の各問に答えなさい。

※ 非公開

※ 非公開

(川村秀憲・山下倫央・横山想一郎、『人工知能が俳句を詠む—AI 一茶くんの挑戦—』,
オーム社, 2021 年, 34～37 ページ, 本文を抜粋・一部改変)

- 問 1 下線部の「人工知能の研究にとって俳句を扱う意義」について、本文中では、その価値や課題をどう捉えているか、500 字以上 600 字以内で要約しなさい。
- 問 2 人工知能が人の感性や価値観で成り立つ創作の領域に入り込むこと、さらには文化や社会の一部を形成しようとする事について、あなたの考えを 500 字以上 600 字以内で述べなさい。

令和6年度入学試験問題

(学校推薦型特別選抜Ⅰ・社会人特別入試)

小論文

国際地域創造学部 国際地域創造学科

(昼間主コース・夜間主コース)

出題の意図

この小論文を出題する意図は、人工知能が私たちの感性や価値観を再現し相互に影響し合う存在となり、これまでは人が行ってきた創作の領域に入り、文化や社会の一部を形成しようとする急速な時代の変化を題材として、主体的かつ論理的な考えや想像力を備えているかを見ることにある。問1は、人工知能と俳句とが筆者のなかでどう関わっているか、その取組や意義を論理的かつ正確に汲み取ることができるか、問2は現時点で人によって、また分野などによって意見が分かれる人工知能そのものをどう考えるかを問うことで、想像力や自分自身の主張を展開できるかがポイントとなる。この問題は、国際地域創造学部のアドミッションポリシーにある「地域の文化・社会について多様な学問的見地から興味を持ち、主体性をもって課題に取り組むこと」「現代の地域・国際社会をめぐる多様な課題に対する関心を持ち、自らの感性と経験をとらえて他者や社会と関わること」「21世紀型市民として必要な学際的教養を身に付ける意欲を持ち、他者や異文化に対する柔軟な態度」に必要な力を有するかを問うものである。